

令和5年度第1回宇部市環境審議会議事録

日時：令和5年7月26日(水) 13時30分～15時30分

場所：宇部市総合福祉会館4階 大ホール

1 報告事項（事前協議報告、環境事故等報告）

- (1) 排ガスにおける協定値の超過について
- (2) 有害性ガスの漏洩事故について
- (3) 有害性物質の火災事故について
- (4) スラッグポット反転作業時の水蒸気爆発事故について
- (5) 排水における協定値の逸脱について

2 出席者（順不同、敬称略）

<委員>

市民：加藤泰生

学識経験者：奥田昌之、小林剛士、山本浩一、三上真人、福代和宏、吹上静恵

企業代表者：森野譲、雪本和則

民間団体：竹重真由美、木原裕子、新谷弘昌

<宇部市>

市民環境部：黒瀬部長、村岡次長

環境政策課：西岡副課長、岡係長、係員2名

3 議事概要

<事務局>

宇部市環境審議会条例第5条第3項の規定により、本日の会議が成立していること
の確認（委員数16名に対し過半数の12名参加。）。

配布資料の確認。

事業所の人事異動に伴う委員交代及び役職継承の紹介。

セントラル硝子株式会社 宇部工場 工場長

（前）毛利勇 委員 → （新）森野譲 委員

UBE株式会社 宇部ケミカル工場 工場長

（前）高瀬太 第1副会長 → （新）雪本和則 第1副会長

<会長あいさつ>

今回は環境事故5件の報告を受ける。事故発生時期と審議会の開催時期はずれるが、令和3年度審議会では13件、4年度は9件の事故報告があり、今回は5件ということで、事故の増加が心配である。施設の老朽化や人員不足といった他の業種も抱える問題があると思うが、押さえるべきところは押さえて事故防止に更に努めて欲しい。

また、本日は、専門家でない委員にもわかりやすい説明をお願いしたい。

排ガスにおける協定値の超過について

<UBE株式会社>

資料1に基づき説明

<加藤委員>

凍結により閉塞した配管の径はどれくらいか。完全な閉塞か、一部の閉塞か。

<UBE株式会社>

20～25cmである。完全に閉塞したかどうかは分からない。

<加藤委員>

対応として、配管を温めるとあるが、常に温めている訳ではないであろうし、寒波の来るタイミングもある。常に閉塞が発生しないことが重要であると思う。

<三上委員>

事故の直接的な原因は配管の凍結か。以後の対策は凍結防止ということによろしいか。

<UBE株式会社>

そうである。凍結に付随してガスが逆流し事故に至った。

<三上委員>

凍結防止とガス流出は分けて考えた方が良い。

有害性ガスの漏洩事故について

<UBE株式会社>

資料2に基づき説明

<森野委員>

フランジの気温変化による変形はよくあることと思うが、過去にはなかったのか。

<UBE株式会社>

当該装置ではなかった。

<森野委員>

事故発生に係る机上訓練は行っていたか。

<UBE株式会社>

CO漏洩に関しては行っていなかった。

<加藤委員>

装置の稼働年数はどれくらいか。

<UBE株式会社>

設置から40年経過していた。

<加藤委員>

装置は強烈な低温にさらされれば劣化が早まると思うが、どれくらいのサイクルで交換していたか。

<UBE株式会社>

当該フランジは約10年前に交換した。交換周期は決めず、機密検査の結果により対応してきた。

<加藤委員>

材質により劣化速度が違う。期限を決めての交換が望ましいのでは。

<UBE株式会社>

社内で検討したい。

<三上委員>

COの危険性を認識していれば、担当者は適切な保護具を着けていたはずではないか。

<UBE株式会社>

担当者には、危険で若い者に対応させてはいけないとの認識があり、急いで対応にあたってしまったが、危険性の認識が十分でなかったかもしれない。

<三上委員>

担当者の認識の修正を願いたい。

事故防止のための手順書の社員への教育についてはどうなっているか。

<UBE株式会社>

作成とともに教育に取り組んでいる。

<三上委員>

手順書の教育は、化学物質管理に関する安全データシート(SDS)教育とは別におこなわれているのか。

<UBE株式会社>

手順書教育とSDS教育を併せて行っている。

<三上委員>

「職場の風土として運転を継続させる意思が強かった」という点が気になる。

<UBE株式会社>

生産第一との意識が念頭にあった。手順を遵守する教育と、職員の意識改革を進めている。

<三上委員>

本件は、人が亡くなりかねない事故。気を付けて欲しい。

<加藤委員>

市街地にポータブル感知器を持ってCOを検知しに行っても、現場に到着したときには拡散し感知器への影響がなくなっているのでは。他のセンサー等で対応してもらえれば。

<山本委員>

オペレーターは保護具を着用していたか。

<UBE株式会社>

担当者、オペレーターともに着用していなかった。オペレーターは未装着のまま離れた場所で待機していた。

<福代会長>

工場の運転が止まると損失が発生することは理解するが、事故が起きればもっと大きな損失になる。安全第一で取り組んでいただきたい。

有害性物質の火災事故について

<UBE株式会社>

資料3に基づき説明

<福代会長>

隣の工場の帰宅中の職員が第一発見者となったということが、迅速な対応という面ではいかなものかと思う。内部でいち早く異常を発見できる体制づくりをお願いしたい。

<UBE株式会社>

そのとおりであり、対応しているところである。

<吹上委員>

学校現場でも老朽化設備が多く、問題ないかどうかの確認に課題を抱えている。参考として伺いたいが、各所の点検は周期的に行っているか。

<UBE株式会社>

工場の中で各設備の重要度を定め、点検周期を定めている。

<吹上委員>

事故防止のためには、周期を短くすることも一つの方法ではと思う。

<福代会長>

設備については、時間が経てば点検周期を短くすることも検討が必要と思う。

<UBE株式会社>

個別の点検結果で、結果により周期を短くするという対策はとっている。

スラグポット反転作業時の水蒸気爆発事故について

<株式会社宇部スチール>

資料4に基づき説明

<森野委員>

二人で作業するところを一人で行ったとあるが、手順書では一人となっていたのか。

<株式会社宇部スチール>

手順書は二人となっている。事故発生時作業にあたった者が、一緒に行くべきもう一人の職員と連絡がつかなかったため、一人で作業してしまった。

<森野委員>

手順書に則った作業を行うことが大前提であるはずだが、いかがか。

<株式会社宇部スチール>

職員に手順書の順守を徹底させる。

排水における協定値の逸脱について

<宇部マテリアルズ株式会社>

資料5に基づき説明

<福代会長>

UBE株式会社から炭酸ガスの供給停止がもっと早く伝えられていれば、事故は避けられたと思うがいかがか。

<UBE株式会社>

通常の連絡体制であれば対応できていたと考える。

<福代会長>

連絡体制の強化が対策に掲げられているので、これをしっかりとやってもらいたい。

事務局より

<黒瀬部長>

委員各位におかれては、暑い中、御審議をいただいたことにお礼を申し上げます。

福代会長も触れたが、環境保全協定締結事業者からの環境事故に関する報告が、前回は6件、今回は5件あり、本市としては、現在、市内で環境事故が頻発している状態であると認識している。

協定締結事業者におかれては、工業都市宇部市を支える役割を果たしていただいている一方、市民の健康と安全に大きな影響を及ぼし得る立場にあることを再認識していただき、環境事故の皆減に向け取り組んでいただきたい

ところで、来月には、当審議会でご審議いただいた、初の研修会を実施する運びとなっている。1回目は、UBE株式会社様に御協力をいただき、現地において、普段、見られない工場の運転や管理などについてご説明いただく予定である。2回目は11月頃の実施を検討しており、得ることも多いと思うので、積極的な御参加をお願いしたい。